

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011		
法人名	社会福祉法人 小松島敬和会		
事業所名	グループホームひかり		
所在地	徳島県小松島市坂野町字櫛のべ35番地		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する特養や、デイサービスとの連絡を密にとり、イベントや行事に参加させて頂いている。調理は、手づくりにこだわり、季節の野菜や旬のお魚などをメニューにとりいれている。ご近所の方の訪問やご家族の面会に柔軟に対応し、ご近所の方やご家族との関係が途切れない様に努力している。玄関に花を生けたり、壁面を飾ったり、利用者の作品を展示して、季節を感じて頂く様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路に近い利便性の良い場所に立地している。介護老人福祉施設や通所介護事業所も隣接しており、様々な連携体制が充実している。災害対策においては、隣接事業所との訓練や応援体制づくりに努めており、利用者の安全確保に積極的に取り組んでいる。事業所内には、季節感のある作品や行事等の写真を掲示しており、全職員で家庭的で暖かい雰囲気づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員が理念を復唱し、理念に沿った支援が出来る様に全職員が心がけている	申し送り時に、全職員で理念を唱和して共有化を図り、日頃の支援に繋げている。事業所のスタッフルームにも理念を掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度は、ボランティアサークルの催しがあり、地域の方達との交流が出来る。	事業所では、地域住民やボランティアサークルを受け入れている。また、年1回、公的機関の実施する作品展に利用者の作品を出品している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、事業所の実践方法などや取組を理解して頂くように努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設の管理者や職員にも参加して頂き、意見などを参考にし、サービス向上に努めている	運営推進会議では、他のグループホームの管理者や職員の出席を得ている。運営推進会議で出された意見をサービスの質の向上へ活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島介護福祉課や社会協議会などと密に連絡を取り、情報交換や問題解決に向けた相談等し協力して頂いている	職員は、直接、市担当窓口へ出向いて実績報告を提出し、その際に相談や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度は、身体拘束委員会を開催し、身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では、新聞などを参照して身体拘束について話し合っている。毎月、身体拘束廃止委員会を開催して事例検討等を行い、正しい理解に繋げている。防犯の観点から、夜間のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度は、虐待防止委員会を開催し、虐待について理解し、利用者に苦痛を与えないように注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じて、学ぶ機会を持ち、利用者が活用出来る様に、関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には、十分に説明し、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、理解や納得をして頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望が伝えられるように意見箱を設置している。苦情や相談事には、早急に対応出来る様に努めている	家族の来訪時に職員から声かけをするようにしており、意見等を聞くように努めている。玄関に意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に、職員の意見や提案を話し合い、職員の働く意欲や向上に努めている	管理者が中心となって、職員一人ひとりの意見や意向を聞くようにしている。職員から様々な相談を聞く体制を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況、実績などを把握し、職員一人一人が向上心が持てる職場環境の整備に努めている。また資格習得に応じて手当がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が法人内外の研修会に参加し、技術や知識を身に付ける事が出来る様に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が関連法人や他のグループホームと交流をもち、情報交換やサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人とゆっくり話をする機会を作ったり、家族に協力をしてもらい、本人の要望や不安などを聞いて頂く様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって話をしっかりと聞き、家族の気持ちを受け止める様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医と相談しながら、情報収集に努め、必要なサービスについて話し合いニーズを挙げ、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人のペースに合わせたサービスを行う様に努めている。利用者本人の意思を傾聴し、コミュニケーションを図り、信頼関係が作れる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族の困っている事や悩んでいる事への相談に乗り、信頼関係を築いて行ける様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域に出掛けたり、ご近所の方に来て頂いたり、今までの関係が途切れないように努めている	事業所では、利用者の友人や地域住民に来訪してもらいやすいような雰囲気づくりに留意している。利用者の馴染みの方から、野菜等を差し入れてもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に話が出来る様に職員が関わり、交流が出来る様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひかり便りを送り、行事等の参加に努めている。運営推進会議に参加して頂いたりし、これまでの関係性を大切にしている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の希望や要望を面会時等に伺い、把握した中で、利用者本人の希望に添えるように努めている	入居時の段階で、利用者から希望や要望を聞くようにしている。また、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は、面接時や入所時に本人や家族から情報収集している。苑生活の中での会話などから本人の思いや趣味などを把握する様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者一人一人の心身状態を観察し、気づいた事などは、日誌に書き留め情報を供用出来る様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族、職員、主治医を交えカンファレンスを行い、利用者や家族の要望、意向に沿った介護計画を作成する様に努めている	6か月に1回、介護計画を見直している。モニタリングは3か月に1回実施しており、利用者の現状に応じた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に、利用者の様子や気づきを記入し、毎日の申し送り時に、情報を供用出来る様に努め、ケアへの実践に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズに添える様に、隣接する特養やディサービス、支援ハウスなどの柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事やイベントに参加、見学させて頂き、豊かな暮らしが出来る様に努めている。ボランティアの来苑で「触れ合う時間」を大切に過ごして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関があり、月3回の個人往診を受ける事出来ている。通院、受診時の移送介助や付き添いの支援を行い、家族へ受診の結果報告や説明をしている	協力医療機関と密に連携を図っている。月3回、往診を受け入れている。専門科の受診については、利用者一人ひとりのかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得て、送迎の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで熱発や体調の把握に努め、主治医や関係医療機関への相談、報告を行い、適切な受診や看護が受けられる様に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人が安心して治療が受けられる様に、医療機関へ情報を提供し、家族や利用者本人の相談に対応出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で利用者本人や家族と話し合い、相談に応じながら、希望に添う事が出来る様に、主治医や関係医療機関と連携し支援していくことに努めている	契約時の段階で、重度化や終末期の事業所の方針と対応について、本人や家族に説明を行っている。また、利用者の心身状態の変化に応じて、家族や医療機関と連携を図って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や急変時の対応マニュアルに沿って慌てず確実に適切な行動がとれる様に、研修や訓練を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が避難出来る方法を身に付けられる様に、定期的に避難訓練を行っている。隣接する特養とも協力体制を築いている	年2回、事業所独自の避難訓練を実施している。また、年3回、併設の他サービス事業所との合同訓練も実施している。飲料水などを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分で排泄出来る利用者には、他者に気付かれない様に排便の有無を伺っている。入室時にはノックし、声かけをし、プライバシーの確保に努めている	職員は、利用者一人ひとりのプライバシーを損なうことがないように、言葉かけなどに留意している。職員同士で注意を払いつつ、丁寧な対応に努めている。新人職員向けの研修会のときにも周知を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝は、本人の希望に対応し、衣服などの選択は、利用者の意思で決定出来る様に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がどの様に過ごしてきたか、過ごしていきたいかを聞き取り、一人一人のペースを大切に、希望や要望に沿った生活が出来る様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人がおしゃれが出来る様に、家族から化粧品を用意して頂いたり、好みの衣類を用意して頂く様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を活かし、野菜の皮むきや下膳のお手伝いなどを職員と一緒にやっている。食事時に好みのメニューなどを聞きとり、食事が楽しみになるような支援を行っている	利用者一人ひとりの状況に応じて配膳や片付けの役を担ってもらっている。行事食には、利用者に好みを聞いて取り入れるようにしている。また、利用者と職員で、ホットケーキやたこ焼きを作るなどして、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の力を活かし、咀嚼や嚥下状態を把握し、軟飯やうす味にしたり、食べやすい形状にし、誤嚥防止に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の汚れや臭いが生じないように努めている。義歯は、每晚洗浄し、清潔を保てるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、失禁などの回数を減らす様に努めている。日中は可能な限りトイレ介助を行い、排泄の気持ち良さを感じて頂く様に努めている	事業所では排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。利用者一人ひとりの状況に応じて、時間を見計らってトイレ誘導を行うようにしている。排泄の自立に向け、トイレで座位を保つことができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便の把握が出来る様にしている。食物繊維が多く摂れる食事や、寒天を使用したおやつなどの工夫に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、利用者一人一人の希望に添った入浴介助に努めている。入浴できない時は、全身清拭や足浴を行い、清潔に努めている	午前中の中の入浴を原則としているが、利用者の希望に応じて、随時、対応している。季節に応じ、菖蒲湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムに合わせて、安心して気持ちよく眠れる様に傾聴したり、就寝時間を決めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を活用し、利用者一人一人の服用する薬の副作用や用法の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人にあった役割や楽しみを見つけるために、職員全員がコミュニケーションを密にとる様に努め、会話の中から、嗜好品や楽しみ事の支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人、家族が希望すれば、いつでも外出、外泊が出来る様に努めている。	家族の協力を得たうえで、外出や外泊を支援している。また、年間行事計画を立て、花見や菖蒲園見学、ドライブ、買い物等の外出の機会を多く設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お金を所持し、使える様に支援している。管理が困難な利用者には、職員が家族に連絡し、必要な物を購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や知人に電話や手紙でやりとりが出来る様に支援している。ひかり便り等で近況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の区間では、利用者一人一人が安心して過ごせる様に、職員が不快や混乱を招かない様に配慮している。玄関やホールに季節に沿った生花や壁面に工夫を凝らしている	事業所の玄関ホールや食堂等の共用空間には、季節感のある作品を掲示している。利用者と職員で、様々な作品をつくっている。また、事業所内は清掃が行き届いており、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、不安やストレスがたまらない様に職員が間に入り居心地の良い空間づくりに配慮している。和室を利用し、1人でゆっくり新聞が読める工夫に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや鏡台を自宅から持って頂き、利用者本人が居心地よく過ごせる様に工夫をしている。家族やお孫さんの写真を飾りその人らしい環境づくりに工夫している	事業所では、入居時の段階で、居室に利用者の馴染みある品物を持ち込んでもらえるよう説明している。利用者一人ひとりの好みにあわせた居室づくりを行っている。家族や趣味の写真、使い慣れた家電、タンスなどを多く持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで工夫をされている。廊下、ホールは車いすでの移動もスムーズ行える様に配慮されている。自室が認識できない利用者には、本人、家族に了解を得てネームプレートを貼布している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員全員が理念を復唱し、理念に沿った支援が出来る様に全職員が心がけている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度は、ボランティアサークルの催しがあり、地域の方達との交流が来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、事業所の実践方法などや取組を理解して頂くように努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設の管理者や職員にも参加して頂き、意見などを参考にし、サービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島介護福祉課や社会協議会などと密に連絡を取り、情報交換や問題解決に向けた相談等し協力して頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に一度は、身体拘束委員会を開催し、身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度は、虐待防止委員会を開催し、虐待について理解し、利用者に苦痛を与えないように注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じて、学ぶ機会を持ち、利用者が活用出来る様に、関係者と話し合い、それらを活用できる様に支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には、十分に説明し、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、理解や納得をして頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望が伝えられるように意見箱を設置している。苦情や相談事には、早急に対応出来る様に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に、職員の意見や提案を話し合い、職員の働く意欲や向上に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況、実績などを把握し、職員一人一人が向上心が持てる職場環境の整備に努めている。また資格習得に応じて手当がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が法人内外の研修会に参加し、技術や知識を身に着ける事が出来る様に支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が関連法人や他のグループホームと交流をもち、情報交換やサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人とゆっくり話をする機会を作ったり、家族に協力をしてもらい、本人の要望や不安などを聞いて頂く様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって話をしっかりと聞き、家族の気持ちを受け止める様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や主治医と相談しながら、情報収集に努め、必要なサービスについて話し合いニーズを挙げ、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人のペースに合わせたサービスを行う様に努めている。利用者本人の意思を傾聴し、コミュニケーションを図り、信頼関係が作れる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族の困っている事や悩んでいる事への相談に乗り、信頼関係を築いて行ける様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域に出掛けたり、ご近所の方に来て頂いたり、今までの関係が途切れないように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が気軽に話ができる様に職員が関わり、交流ができる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひかり便りを送り、行事等の参加に努めている。運営推進会議に参加して頂いたり、これまでの関係性を大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の希望や要望を面会時等に伺い、把握した中で、利用者本人の希望に添えるように努めている			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は、面接時や入所時に本人や家族から情報収集している。苑生活の中での会話などから本人の思いや趣味などを把握する様に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者一人一人の心身状態を観察し、気づいた事などは、日誌に書き留め情報を供用出来る様に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、家族、職員、主治医を交えカンファレンスを行い、利用者や家族の要望、意向に沿った介護計画を作成する様に努めている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に、利用者の様子や気づきを記入し、毎日の申し送り時に、情報を供用出来る様に努め、ケアへの実践に努めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者のニーズに添える様に、隣接する特養やディサービス、支援ハウスなどの柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		地域の行事やイベントに参加、見学させて頂き、豊かな暮らしが出来る様に努めている。ボランティアの来苑で「触れ合う時間」を大切に過ごして頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		関係医療機関があり、月3回の個人往診を受ける事出来ている。通院、受診時の移送介助や付き添いの支援を行い、家族へ受診の結果報告や説明をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		毎日のバイタルチェックで熱発や体調の把握に努め、主治医や関係医療機関への相談、報告を行い、適切な受診や看護が受けられる様に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院時には、本人が安心して治療が受けられる様に、医療機関へ情報を提供し、家族や利用者本人の相談に対応出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		早い段階で利用者本人や家族と話し合い、相談に応じながら、希望に添う事が出来る様に、主治医や関係医療機関と連携し支援していくことに努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		急変時や急変時の対応マニュアルに沿って慌てず確実に適切な行動がとれる様に、研修や訓練を定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		職員全員が避難出来る方法を身に付けられる様に、定期的に避難訓練を行っている。隣接する特養とも協力体制を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分で排泄出来る利用者には、他者に気付かれない様に排便の有無を伺っている。入室時にはノックし、声かけをし、プライバシーの確保に努めている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝は、本人の希望に対応し、衣服などの選択は、利用者の意思で決定出来る様に努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がどの様に過ごしてきたか、過ごしていきたいかを聞き取り、一人一人のペースを大切に、希望や要望に沿った生活が出来る様に努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人一人がおしゃれが出来る様に、家族から化粧品を用意して頂いたり、好みの衣類を用意して頂く様にしている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力を活かし、野菜の皮むきや下膳のお手伝いなどを職員と一緒にやっている。食事時に好みのメニューなどを聞きとり、食事が楽しみになるような支援を行っている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の力を活かし、咀嚼や嚥下状態を把握し、軟飯やうす味にしたり、食べやすい形状にし、誤嚥防止に努めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の汚れや臭いが生じない様に努めている。義歯は、每晚洗浄し、清潔を保てるように努めている			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、失禁などの回数を減らす様に努めている。日中は可能な限りトイレ介助を行い、排泄の気持ち良さを感じて頂く様に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、排便の把握が出来る様にしている。食物繊維が多く摂れる食事や、寒天を使用したおやつなどの工夫に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、利用者一人一人の希望に添った入浴介助に努めている。入浴できない時は、全身清拭や足浴を行い、清潔に努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活リズムに合わせて、安心して気持ちよく眠れる様に傾聴したり、就寝時間を決めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を活用し、利用者一人一人の服用する薬の副作用や用法の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人にあった役割や楽しみを見つけるために、職員全員がコミュニケーションを密にとる様に努め、会話の中から、嗜好品や楽しみ事の支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人、家族が希望すれば、いつでも外出、外泊が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、お金を所持し、使える様に支援している。管理が困難な利用者には、職員が家族に連絡し、必要な物を購入して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や知人に電話や手紙でやりとりが出来る様に支援している。ひかり便り等で近況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の区間では、利用者一人一人が安心して過ごせる様に、職員が不快や混乱を招かない様に配慮している。玄関やホールに季節に沿った生花や壁面に工夫を凝らしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、不安やストレスがたまらない様に職員が間に入り居心地の良い空間づくりに配慮している。和室を利用し、1人でゆっくり新聞が読める工夫に努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや鏡台を自宅から持って頂き、利用者本人が居心地よく過ごせる様に工夫をしている。家族やお孫さんの写真を飾りその人らしい環境づくりに工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで工夫をされている。廊下、ホールは車いすでの移動もスムーズ行える様に配慮されている。自室が認識できない利用者には、本人、家族に了解を得てネームプレートを貼布している		